

～親子ではぐくむネットモラル～

「見守る」と「監視する」の違いを考える

子どもがスマホやSNSを使うようになると、保護者としては「ちゃんと安全に使えているだろうか」「トラブルに巻き込まれていないか」と心配になるものです。そこで、利用状況をチェックしたり、アプリの履歴を確認したりする方もいるでしょう。しかし、その行動が「見守り」なのか「監視」なのか――この違いを意識することが、子どもとの信頼関係を築くうえでとても重要です。

「監視」とは、子どもの行動を一方向的にチェックし、問題があればすぐに指摘・制限すること。保護者が安心したいがために、子どものプライバシーを無視してしまうこともあります。これでは、子どもは「信用されていない」と感じ、保護者に本音を話さなくなってしまう可能性があります。

一方、「見守り」は、子どもの成長を信じながら、必要なときに手を差し伸べる姿勢です。たとえば、「困ったことがあったらいつでも話してね」と声をかけたり、「どんなアプリを使ってるの?」と興味をもって聞いたりすることで、子どもは「保護者は味方だ」と感じるようになります。見守りは、子どもが自分で考え、選び、失敗から学ぶ力を育てる土台にもなります。

もちろん、年齢や状況によっては、ある程度の制限や確認が必要な場面もあります。ただし、その際も「なぜこの設定が必要なのか」

「どうすれば安心して使えるか」を家庭で話し合うことが大切です。ルールを一方向的に押しつけるのではなく、納得感をもって共有することで、子どもは自分の行動に責任をもてるようになります。

「見守る」と「監視する」の違いは、保護者の姿勢にあります。子どもを信じ、対話を重ねることが、情報モラル教育の第一歩です。今日から少しずつ、「見守る保護者」への一歩を踏み出してみませんか。

学校任せにしない！家庭での情報モラル教育の重要性

「情報モラル教育は学校でやってくれるから安心」――そう思っていないですか？確かに、学校ではネットの使い方やトラブルへの対処法などを教える機会があります。しかし、子どもがスマホやSNSを使う時間の多くは家庭です。だからこそ、家庭での情報モラル教育が欠かせないのです。

家庭での教育が重要な理由は、まず「日常の中で繰り返し伝えられる」こと。学校では年に数回の授業でも、家庭では毎日の会話の中で自然に情報モラルを育むことができます。「その投稿、誰かを傷つけていない?」「知らない人からのメッセージには気をつけようね」――そんな一言が、子どもの意識を変えるきっかけになります。

また、家庭では子どもの性格や成長段階に合わせた対応が可能です。好奇心旺盛な子には「調べる力」を育てる工夫を、慎重な子には「相談する力」を伸ばすサポートを。保護者だからこそできる、きめ細やかな教育があるのです。

さらに、保護者自身が情報モラルを意識することも大切です。スマホを使いながらの食事、無断で子どもの写真をSNSに投稿する行為など、大人の振る舞いが子どもに影響を与えます。「大人がやっているからいいんだ」と思わせないためにも、まずは自分の行動を見直すことが必要です。

情報モラルは、単なる知識ではなく「生き方の姿勢」です。学校任せにせず、家庭でこそ育てるべき価値観。子どもと一緒に考え、話し合い、日々の中で実践することが、子どもをネット社会の中で守る力になります。

◇参考資料（札幌市教育委員会資料より抜粋）◇